

# 本の ひろば

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2017年12月1日発行（毎月一回発行）第720号

ISSN 0286-7001

## 出会い・本・人

内村鑑三著・鈴木俊郎訳

『余は如何にして基督信徒となりし乎』

(岩波文庫)との出会い 中田一郎

## 本・批評と紹介

上田光正 著

日本の伝道を考える5

キリストへの愛と忠誠に生きる教会

近藤勝彦

竹田純郎 著

生命の宗教 キリスト教 江口再起

原 敬子 著

キリスト者の証言 東條隆進

フスト・ゴンサレス 著／石田 学 訳

キリスト教思想史II

—アウグスティヌスから宗教改革前夜まで

片山 寛

牧野信成 著

旧約のアドヴェント 大石周平

手束正昭 著

恩寵燦々と 三谷康人

アリストター・E.マクグラス 著／芳賀 カ 訳

神学のよろこび 新装増補改訂版 朝岡 勝

ジョン・マッカーサー 著／山口衣子 訳

聖書に登場する12人の非凡な女性たち

矢木良雄

宮武正明 著

シリーズ福祉に生きる70

白沢久一 杉村 宏

説教黙想アレティア特別増刊号

受肉の驚き 松木 進

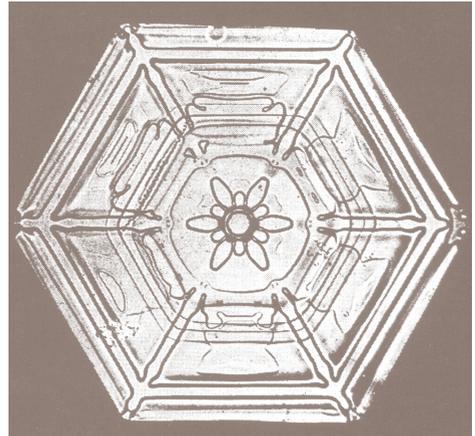
佐竹順子 著

あなたに平安がありますように

乙幡和雄

既刊案内

書店案内



12 DECEMBER  
2017

## 日本語で書き下ろす聖書注解シリーズ、好評刊行中！

# VTJ旧約聖書注解・NTJ新約聖書注解

### 5つの特長

- 1 **日本語で書き下ろされており、読みやすい**  
日本語で考える研究者たちが書き下ろし、格段に分かりやすい
- 2 **原典の文書・文体・文法・語彙の特徴がわかる**  
ヘブライ語・ギリシア語の原典からの翻訳を掲載、原語の「手触り」が感じられる
- 3 **聖書各書の歴史的・文化的・社会的背景がわかる**  
伝統的理解から最新の研究成果までを反映した丁寧な解説
- 4 **先入観に支配されず、聖書が提起している問題を理解できる**  
研究の進展による豊かな解釈、豊かな問いかけ
- 5 **聖書の理解を通して、現代社会への深い洞察を得ることができる**  
聖書テキストの現代的意味の考察と黙想への誘い



## VTJ旧約聖書注解 出エジプト記

第2回  
配本

### 1～18章 鈴木佳秀 (フェリス女学院学院長)

主とイスラエルの民との出会いや記憶の原点とも言える、エジプト脱出や荒れ野、啓示の出来事。従来の歴史的・資料的視点を鑑みつつ、どのような意図でテキストを編集したかという思想的視点からそれらを考察。「エクソダス」の現代的意義を我々に問いかける。

◆A5判 上製・322頁・通常価格4,752円

2017年11月20日刊行  
シリーズ刊行開始記念  
特価3,672円  
2018年4月30日まで

シリーズ好評発売中

## NTJ新約聖書注解 ガラテヤ書簡 浅野淳博

パウロの論旨が明快になる最高水準の注解書。

◆A5判 上製・538頁・通常価格6,480円

シリーズ  
刊行開始記念  
特価5,184円  
2018年3月31日まで





## 出会い・本・人

内村鑑三著・鈴木俊郎訳『余は如何にして基督信徒となりし乎』(岩波文庫)との出会い——中田一郎

私が本書に出会ったのは、高校時代であった。読み始めると面白くてやめられず、期末試験中であつたが一気に読み終えたのを覚えている。

内村は、一八七七年、一七歳のとき、創立されて二年目の札幌農学校に入学した。創立と同時に入学していた一期生は、既にクラーク博士によつて全員キリスト教に回心させられていて、新しく入学してくる内村たち二期生を回心させようと待ち構えていた。二期生たちは、むりやり「イエスを人ざる者の誓約」に署名させられたという。

内村は、それまで神社信仰に篤かつたが、神々があまりに多種多様なため、すべての神々の要求を満足させるのに悩んでいた。しかし、「むりやり」とは言え、「イエスを人ざる者の誓約」に署名した結果、いろいろな神々の要求から解放され、精神的自由を獲得できたという。

年末の日曜日の夜、酒に酔った嫌いな数学教師を皆で外に連れ出し雪の玉を投げつける等した後、平然と自分たちの夕拝をまもつたというエピソード、夜の祈祷会で牧師役の同級生が説教壇代わりのメリケン粉樽にうつぶせになつて眠り込んでしまひ、全員の祈祷が終わつても閉会宣言が行われなかつたため、内村がやむなく祈祷会の閉会を宣言した話し等、札幌バンド草

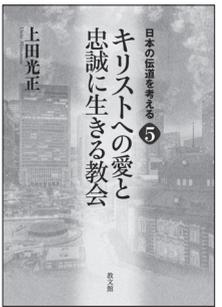
創期の素朴でユーモラスなエピソードは、洗礼を受けて間もないの私にとつて、誠に愉快なものであつた。

その後内村は、米國に留学(一八八四年十一月)、自分の信仰上の苦惱が癒されることを願つて八ヶ月間看護師としてペンシルバニア州の知的障害児の養護施設で過ごしたが、苦惱が癒されないままマサチューセツツ州のアマーストに移つた(一八八五年九月)。内村は、アマースト大学のシリー学長の暖かい支援と感化によつて、徐々に福音の喜びを実感できるようになつた。本書に引用されている一八八六年八月一六日の日記に「嗚呼、何たる『イエス』にある歡喜と平和よ」と書き、九月一三日の日記によると、「罪に死すること」は、……ただ十字架に釘けられ給ひし「イエス」を仰ぎ瞻ることに依りて、成就せられ得るなり」と確信、喜びのあまり、一人で野葡萄のジュースとビスケットで聖餐の儀式を行つたという。私は、内村の素朴で純粹な信仰に強く心を撃たれた。その後、内村の本を何冊か読むことになるが、この本は私にとり忘れがたい一冊となつた。(現在、『余は如何にして……』は、鈴木範久訳の新版が岩波文庫に収められている)。

(なかた・いちろう 中央大学名誉教授)

「教会の建設」に何が必要か  
上田光正著

## 日本の伝道を考える5 キリストへの愛と忠誠に生きる教会



近藤勝彦

「文は人なり」と言われることは、一冊の著書とその著者の関係についても言い得るであろう。本書『キリストへの愛と忠誠に生きる教会』は、五〇年近く日本の教会に牧師として仕えて来た著者の祈りや思索の特徴をよく表している。著者の勤勉な学習努力と探究心は行間に明らかであり、日本の伝道の危機と教会形成の難所に取り組みながら、聖書に導かれて教会の建設のために考察した諸成果が示されていることも明らかである。本書の特徴は、学術の錯綜した迷路に踏み込む際にも、実践的課題から目を離さず、教会の建設を共同の目的とする信徒方に親しく語り、時に脇道に逸れることもいとわず、必要と信じることを自由に語る姿勢にある。書名は、教会指導の忍耐と労苦を重ねた著者を支えてきた目標を表している。

本書の内容は、まず序章において「教会論における聖書と伝統の位置づけ」を論じ、著者は「聖書は聖なる神の像」であり、「教会は聖書から生まれた」と語る。聖書からの教会の誕生を主張することは、歴史の経過から言えば、新約聖書の正典化は初代教会よりずっと後で、説明が必要になる。著者はすでに前

著「日本の教会の活性化のために」第一章において「キリスト論的教会論」を叙述している。それと合わせて読むことを読者に求めている。

序章に続く第一章は「信仰に生きる教会の建設」と題され、聖霊の働き、洗礼、それに教会の徴（聖、公、一にして使徒的）を扱っている。特に「教会の基礎は洗礼である」との表現で、洗礼（式）が持っている受洗者に対する意味と、それだけでなく、すでに洗礼を受けた教会員に対して持っている意味を語っている。

第二章は「愛に生きる教会の建設」で、「イエス・キリストの自己卑下と自己贈与」、「教会への約束としての永遠の命」、「慰めに満ちた教会の建設」と分けられる。ここでは「キリストの仲保・媒介」によって成り立つ「聖徒の交わり」と終わりの時の復活や永遠の命が扱われる。教会論の中で終末論に言及されるが、著者は教義学構成の約束にほとんど拘束を感じていない。むしろ教会の建設のためには「最後の審判の基準」など「終わりの事柄」についての確信が必要なので、必要なことは

自由に語るといふ考えと見受けられる。典拠の精査の作業にも拘泥せず、伝聞や感想など必要に応じて自由に散りばめている。

第三章は「希望に生きる教会の建設」の表題のもと、「教会に与えられた使命」「教会の一致と成長」が扱われ、とくに伝道と教会法に関心が向けられている。これに補足的な意味で「教会と国家」「公会教会の回復と伝道協力」が扱われる。著者には扱いたい問題が沢山あるのであろう。教会論の枠を突き破る問題にも発言は及びたいのであろう。しかしそれを教会の建設の中で扱おうとするのは、牧師としての著者の特徴である。本書はかくして著者の五巻からなる一連の著作「日本の伝道を考える」の完結部をなしている。著者の言葉によれば、はじめの三巻がひとまとまりの著作としてまず完成し、続いて二巻でひとまとまりのものが、第4巻、第5巻として加えられたという。こうした本書成立の経緯は、当然、教義学的な全体構成

に対して錯綜した影響を与えずにはおかない。説教については第4巻で、洗礼は第5巻で記された。聖餐についての記述も、「教会の交わりと一致を形成する礎」として本書で扱われているが、表題には現れない。うっかり読み落とさない注意が読者には求められる。

著者が教会論のキーワードとした「信仰」「愛」「希望」は、教会論としてより、聖霊によって生かされるキリスト者の生として語られるのが通常である。しかしそれを敢えて「教会の建設」と重ねたところにむしろ本書の特徴があるであろう。著者は日本の教会の実状を顧みて、「教会の魅力」を回復することが急務と語っている。そうした著者の実践的な狙いが、本書の工夫によって幾分かでも果たされていくことを、読者とともに期待したい。

（こんどう・かつひこ＝東京神学大学名誉教授）  
（A5判・三七〇頁・本体三三〇〇円＋税・教文館）

説教黙想 アレテア 特別増刊号

心新たにクリスマス語りを伝えよう

## 受肉の驚き 今、クリスマスに

いかに語るか

好評発売中



イエスの受肉という驚くべき恵みの知らせ。聖書に聴き、神学に学び、そして絵本やマンガ、音楽など様々な芸術を通して、クリスマスに驚こう。クリスマス説教作成の手引きも収録。 B5判・128頁・2000円

## 主日礼拝の祈り

越川弘英／吉岡光人 監修

主日礼拝での祈りの例集。各主日と祝祭日の「開式の祈り」や「行事の祈り」、「執り成しの祈り」や「奉獻の祈り」などを収録。礼拝奉仕者必携！

B6判 上製・136頁・1,620円

## このえほん だいすき!

読み聞かせのための48冊

細川和子 「おはなしと絵本の会」代表

長く読み聞かせに携わってきた著者が、子どもにとって「楽しい」ことにこだわり、国内外の48の名作を紹介する。絵本選びの悩みを解決する1冊。

四六判 並製・134頁・1,404円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)

http://bp-uccj.jp

「乏しき時代」におけるキリスト教の可能性  
竹田純郎著

### 生命の宗教 キリスト教 「神」をめぐる哲学的考察



### 江口再起

キリスト教の伝統的・正統的な教義や教会制度は、長い歴史を支えてきた一方、その長い年月の間に、その教義や教会の正当性を言葉の上で繰り返すばかりで内容が空疎になりやすい。ステレオタイプな言葉、内輪にのみ通じるモノローグ……。キリスト教が教会以外の人々に深く共感をよびにくくなっている原因のひとつであろう。

つまりキリスト教を今一度、考察し直す必要がある。本書はまさにそうした課題に真正面から向き合った試みである。

とくに竹田氏は近代、それもヨーロッパの啓蒙期(十八世紀以降から現代まで)を論じる。なぜなら、この三百年はキリスト教が従来の権威を失った「世俗化」の時代であり、にもかかわらず、いやそれゆえにこそ「神」について深く思索せねばならない時代だったからである。

さて、竹田氏はこの考察を始めるに当たって、キリスト教をまず「生命の宗教」と規定する。「生命」とは含みの多い言葉だが、ここではもちろん生物学的な生命というだけでなく、霊(性)と言いかえてもよく、要するに「生の総体」ということ

である。そして、その生(そして死)を授ける神を問う。つまり竹田氏の言葉で言えば「造化の神」を問う(つまり「創造の神」、更には言えば創造し保持し救済する神のことである)。

この「造化の神」を本書では、七人の偉大な思想家の思索をたどりつつ考えていくわけだが、竹田氏の出した一つの結論は「万有在神論」として神を理解する、ということである。

ここで蛇足ながら、「万有在神論」について説明しておく。宗教学的にはよく一神教対多神教と分類されたりするが、多神教の根元には「汎神論(Pantheism)」がある。宇宙(万物)が神なのである。しかし「万有在神論(Panentheism)」はちがう。むしろ一神教に関わると言った方がよい。キリスト教は確かに一神教ではあるが、しかし正確には三位一体の一神教と言うべきで、そのことが(ここでは詳述できないが)「万有在神論」としてキリスト教の神を理解してもよい根拠となる。いささか持って回った説明になったが、「万有在神論」とは、宇宙(万物)を超越している神が、万物に内在すると考えるのである。超越的内在の神、あるいは内在的超越の神である。

さて、竹田氏はキリスト教の神を、万有在神論の角度から論じた七人の深淵な思想家群像を登場させる。そしてこの七人の選び方が、従来のいささかステレオタイプ化しマンネリ化した論の運びを打ち破り、実に魅力的なのである。次の人々である(各章の表題を記しておく)。

- 第一章 「暗い時代の人 レッシング、無一物なる生」
- 第二章 「シユライアー マッハー、プロテスタント神学の「カント」
- 第三章 「謎めいた老人 デイルタイ、さ迷えるキリスト者」
- 第四章 「漂泊者 ニーチェ、イエスの道化師」
- 第五章 「近代市民 ウェーバー、アジア的キリスト者」
- 第六章 「辺境の人 A・カミュ、匿名のキリスト者」
- 第七章 「無即愛の弁証者 田辺元、成りつつあるキリスト者」

なんと不思議な、かつ魅力的なラインナップだろう。従来のキリスト教書にはあまり登場しない人々である。しかし本書を読めば、むしろこれらの人々こそがキリスト教の地下水脈を担

っていたことがよくわかる(一人一人については紹介できないが、あえて一人だけウェーバーについて言えば、彼が近代プロテスタンティズムを問題にしたのも、その背後に、東方正教会のトルストイやドストエフスキーの「アジア的キリスト教」への関心があつたからである)。

さてしかし、竹田氏はなぜこうした「万有在神論」の地下水脈を掘り当て論じるのだろうか。それは現代世界に対する強い危機感があるからであろう。竹田氏はそれをハイデガーの言葉を借りて「乏しき時代」、「総駆り立て体制(Gestell)」と言う。原子力が象徴しているように、生きとし生けるもの(もちろん人間も)すべてが経済の、そして科学技術の自己運動システムに巻き込まれ駆り立てられているのである。この時代にキリスト教の可能性はあるのか。竹田氏は「愛の万有在神論」とそれと連動した「共生の倫理」を説く。同感である。

(エッセイ・さいきゅうルター学院大学教授  
A5判・二三三頁・本体二五〇〇円+税・リットン)



新刊



### 慈しみとまこと いのちに向かう主の小道

上智大学  
キリスト教文化研究所 編  
●四六判並製 本体 1,500円

本書は、2016年の聖書週間(上智大学にて行われた聖書講座をもとに、書き下ろした論集とシンポジウム)を収録した。

聖書へブライ語からみる  
「いつくしみ」と「まこと」

月本 昭男

●教皇フランシスコの  
神学における  
「いつくしみ」の意味

ホアン・アイダル

「肝苦(ちむぐ)りさ」の心  
一神のいつくしみと私たちの回心

竹田 文彦

●シンポジウム  
慈しみとまこと

司会 竹内 修一

ISBN978-4-86376-062-2

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402  
FAX 03-3238-7638

キリスト教信仰と神学の原点を改めて問う  
原 敬子著

## キリスト者の証言

人の語りと啓示に関する実践基礎神学的考察



東條隆進

1. 本書は「教会以外に救いなし」という教義から「キリスト以外に救いなし」というケリユグマへの、キリスト者という神にある「キリストの旅人」の物語である。キリスト教神学は聖書神学・歴史神学・実践（宣教の）神学から形成される。本書は実践神学に属する。宣教学のキーワードは神学的ケリユグマの意味解明性にある。神学的ケリユグマ性は「ナザレ人イエスこそ神の子キリストである」という宣言にある。

著者はケリユグマのキーワードをヨハネ福音書一五章二六一二七節に求める。

「私が父のもとから〔将来〕あなたがたに派遣することになる弁護者、父のもとから出てくる真理の霊が来る時、その方が私について証しするであろう。あなたがたも証しする。はじめから私と共にいるのだから」。

福音書が重視するケリユグマとディダケーの関係性に著者は注目する。本書が第一章「経験を物語る場としての証言」、第

二章「経験と啓示」、第三章「証言の中で啓示を聞く」から構成されている理由である。ケリユグマの啓示性をディダケーの経験性と結ぶ。そしてカイロスとクロノスの関係も、啓示性とキリスト者の証言性で切り結ぶ。「証言」なしの「キリスト者」という概念は成立しないように、「キリスト者」という言語・概念なしの「証言・殉教」も成立しない。

2. 宣教の担い手は誰か。第一の担い手は宣教師である。宣教師の指導の下で教会形成が開始し、教会がキリストの運命共同体として、宣教のゲシユタルト・ムーブメントに参加する。

「ナザレ人イエスこそ神の子キリストである」という証言と教会のキリストの運命共同体性は切り離すことは出来ない。

著者は「戦後日本の外国人宣教師の証言」に「信の証言」を求めた。「信の証言」は「聞き手と語り手」の共同作業としてのみ成立する。「あなたの歴史から誘引されるわたしの歴史」の過程で、宣教活動の中で揺れる「自己」の共同発見の旅が始まる。ここで初めて宣教に必ず伴う帝国主義的信念、植民地主

義的行為との矛盾が現れる。罪の根源に属する差別の根が現れる。この矛盾の自覚と克服の過程から「キリスト者の実存から立ち現れる証言の生成」が目指される（一七五頁）。

3. リクルールは「聖書解釈学」で「証言の解釈学」の研究をした。そこで宗教的言述から神学的言述への可能性を追求し、マルクス、ニーチエのキリスト教批判、フロイド精神分析学の貢献に注目する。そして自らをヘーゲル後のカント主義者に位置づける。このような主張をカール・バルトもブルトマンもなしえなかった。

我々は今、日本宣教の困難性に直面している。遠藤周作の『沈黙』で取り上げられた隣人の苦難への配慮という問題や長崎の原爆投下に対する永井博士の神学をどのように受け止めるかという深刻な課題の前に立たされている。

一八六七年以降の国家による天皇の神格化問題、および今日の対象天皇制問題にどのように対峙するか。さらに富国強兵と

いう帝国主義・植民地主義の問題点、第二次世界大戦（太平洋戦争）の戦争責任問題、従軍慰安婦問題という解決不可能な課題の前に宣教学は立たされている。

本書の評者自身は仏教、特に「般若心経」の世界と法然・親鸞の「悪人正機説」の世界との対話をどのように進めるかという課題の前に立たされている。これらの問題は現代日本宣教師の不可避の課題であると考えている。

宣教学を（cogitatio - meditatio - contemplatio）の流れの上に乗せ「第二バチカン公会議」の神学を積極的に評価した著者の神学的力量に期待したい。著者に導かれて、本質へと絶えず向きを変え、勇気が与えられ、本質へ立ち返る実践を遂行しつつ、神と民との仲介者となる「キリストの旅人」でありたい。

（とうじょう・たかのぶ）日本宣教学会元会長、早稲田大学名誉教授  
（A5判・二五六頁・本体三八〇〇円＋税・教文館）

本館の  
http://shop-kyobunkwan.com/



牧師・神学生・信徒必携の書！ A・ベルレユング／C・フレイフェル編 山吉智久訳

## 旧約新約 聖書神学事典

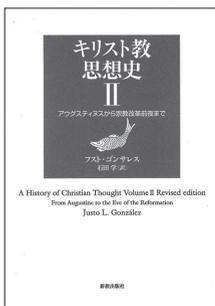
旧新約聖書を貫く基本的な概念を、カトリック、プロテスタント共同で解説。信仰の源泉として聖書を読み解くために不可欠な事典。執筆者全15名、全212項目を収録。 ●A5判・680頁・本体18,000円

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
TEL 03-3561-5549  
呈 図書目録 ●価格は税抜

理想的な思想史の教科書  
フスト・ゴンサレス著  
石田 学訳

## キリスト教思想史Ⅱ

アウグステイヌスから宗教改革前夜まで



片山 寛

思想史を語る人というのは、引き出しの数多くある戸棚のようなものだと思う。ひとつひとつの引き出しの中味もよく整理されていなければならない。大勢の思想家のそれぞれの思想を、かいつまんで、しかも正確に要約して伝えるというのは大変な作業であるが、その使命が思想史家にはある。これが自分自身の枠組みの思想が強すぎて、たとえばかつてヘーゲルがそうであったように、対象となった思想や思想家をゆがめて伝えるようでは、その枠組み自体の面白さはあるにしても、思想史家としてはつとまらない。ギリシア神話に、旅人を寝台の寸法に合せて切り縮めたり引き延ばしたりした宿の主人が出て来るのだが、寝台がいかに立派であったとしても、宿屋としては失格である。

フスト・ゴンサレスはこの点で、理想的な思想史家ではないだろうか。『キリスト教思想史』の第一巻もそうだったのだが、この第二巻でもゴンサレスの紹介はバランスがよくとれており、各々の思想家の立ち位置とその主張がよくわかる。思想家はそれぞれ自分の生まれた時代の課題を背負っており、その中から

私たちに語りかけてくるのだが、ゴンサレスは短い言葉で思想家の背景にあった時代をも紹介してくれるのである。より詳しい同時代史は、ゴンサレスのもう一つの著作『キリスト教史』(上下巻)の方で補わねばならないのだが、二つを併読すると、時代史と思想史の関係が非常に面白く浮かび上がってくる。つまり思想史というものは、時代史の単なる反映ではなく、それ自身の歴史を持っているのであり、時代を超えた先人たちとの対話であり、永遠の真理への考察であるのだが、それでありつつ、同時にそれが生まれた時代からも影響を受けており、時代の課題の表明でもあるのである。

とりわけこの巻のゴンサレスの記述で貴重なのは、アウグステイヌス、アンセルムス、トマス・アクィナスなど古代・中世キリスト教思想の大立者の思想紹介の部分のみならず、その後や同時代の思想状況や、以後のその思想の継承を紹介している部分である。古代・中世の思想史においては、「学派」の形成が非常に重要なのだが、それは学派がその著作の写本と流布の担い手であったことと深く関わっている。学派を形成しない

ような「孤立した」思想家は考えられない。思想の成立はある意味で学派の共同作業だったのである。それなのに、従来の教理史の教科書では、時代の思想状況の記述がはなはだ貧弱であった。本書はその点での私たちの欠落を埋める役割を果たしてくれるのではないだろうか。また同時代の東方教会の神学についても、特に三つの章を設けて略述してくれている。東方神学的重要性を思えば、これでも充分とまでは言えないだろうが、基本的なことを学ぶためには大きな助けとなるはずである。

本巻が扱っているのは、「中世」という時代を中心とした思想史である。それは、古いプロテスタントの教理史ではほぼ無視されていた時代であり、とりあげられたとしても、数名の代表的な神学者の名を挙げただけで簡単に通り過ぎていたような時代であった。しかし近年は欧米でも中世の研究が盛んであり、宗教改革以後の教会が、実際には中世の教会とその思想家たちからいかに多くの伝統を受け取っていたかが見直されつつある。

中世は、キリスト教とその思想がひとまず完成の域に達した時代なのであり、近代には失われた、神にもとづく文化と人間にもとづく文化との対話的關係が成立していた時代なのである。本書の最後に、ゴンサレスは「夜明けか夕暮れか」と題してこの時代の短い総括を記している。「もし西欧文明の歴史において、総合的な世界観と獨創性、そして創造された芸術などのゆえに『古典』と呼ぶべき時代があったとすれば、それは間違いなく十二世紀と十三世紀に他ならない」。それは中世をささやかに研究する私のような者にも、勇気を与えてくれる言葉である。

この浩瀚な書を翻訳してくださっている石田学氏にもひとことと感謝を申し上げたい。

(かたやま・ひろし 西南学院大学教授)  
(A5判・四二六頁・本体五〇〇円＋税・新教出版社)

マイケル・ロダー 大頭真訳 \*新書判になつて登場!

# 神の物語



ヨベル新書 043/044  
上・320頁 1,400円  
下・304頁 1,400円  
(税別)

ロダー来日講演2本収録。  
関野祐二先生書き下し『神の物語』  
の衝撃と影響」を掲載。

ウエスレー研究者の碩学 藤本 満氏推薦  
……独特な魅力があふれている本です。キリスト教神学の全体を、創世記に始まって黙示録まで、聖書を、物語することによって説明してくれるからです。……ロダー博士は聖書の物語に慣れ親しんでいる私たちに、「難しい神学も、こうして読むと心に届くよ」と言わんばかりに、説教をするかのように、聖書を解き明かしながら、神学の本題・神学の課題へと私たちを導き、連れて行ってくれます。……現代の神学者が関心を抱いている事柄のすべてに精通しているほど博学だということですが、しっかりと読んで、仮に批判の一つや二つを絞りがてきまらぬ、私たちが著者と肩を並べることができるとは思いません。(高津キリスト教会牧師)

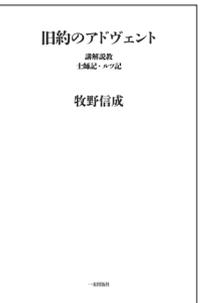
### 大頭真一本

聖書は物語る 一年12回で聖書を読む本 1,100円  
聖書はさらに物語る 二巻収録本 1,100円  
焚き火を囲んで聴く神の物語・対話篇  
——大頭真一と焚き火を囲む仲間たち 2,500円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
お問合せは info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
\*自費出版の専門出版社\*資料・星

今とともに、歴史に向き合い救いを望む  
牧野信成著

## 旧約のアドヴェント 講解説教 士師記・ルツ記



大石周平

本書は日本キリスト改革派教会の牧野信成牧師（今夏より長野で牧会）が神戸の西神教会で語られた説教を一部まとめたものです。より一般的な語りで福音書が説かれた午前礼拝と異なり、当該教会の午後礼拝では、釈義説教としていわゆる「申命記史家の歴史書」が順に講解されたようですが、出版にあたっては説教集の前例が少ない『士師記』が優先的に選ばれました。まず『ヨシユア記』との繋がりと『列王記』までの枠組の確認から説教が始まります。説教者によれば、この枠組で歴史を学ぶ目的と意義は以下三点を知ることです。①歴史を支配するのは神であること、②契約を守り通せない人間の罪深さが存在すること、③その民をも神は見捨てないと歴史が証しすること。

『士師記』（全二二章）の講解は全二二回。〈士師たちの時代〉、すなわち〈転落〉したイスラエルが度々直面した敵の脅威・〈闇の支配〉そして〈兄弟たちの戦争〉のたどなかで、〈それでも救う神〉と出合い、〈兄弟たちの和解〉に方向づけられていく時代の物語が紡ぎ出されます（山括弧は各説教題）。〈左利きのエフド〉や〈デボラとバラク〉らカリスマ士師の物語は

実にドラマティックで、なかでも〈ギデオンの生涯〉や、〈サムソンの誕生〉から〈サムソンの最期〉に至る一連の描写に際だつ「豊かな文学性とエンターテインメント性」には、心を揺さぶられます。

昨今の歴史修正主義者のそれとは対照的に、聖書の歴史観には、罪の時代に向き合う「戦い」のさなかでの、信頼と慰めと平和への方向づけがあります。聖書を本書の手引きで読み進める人は、うつむく頭が次第に持ち上げられ、視野が上向き前向きに開かれる思いを抱くでしょう。

続く『ルツ記』（全四章）の講解は全四回。説教題は〈あなたたの神はわたし神〉〈やさしさに出会う〉〈真心と責任〉〈恵みの道筋〉。説教者は、神の直接介入などなく奇跡もないと感じる時代の「人間中心の物語」にも、「主の摂理」を信じる契機を見逃さないよう促します。目を向けるべきは、神の言葉としての愛の法に生きる生のありようそのものです。ミレー画「落穂ひろい」の主題となった貧者や難民など弱者を支える配慮の法、寡婦救済と家庭の祝福をめざす「レビラト婚」の規

定、所有・経済の公平性を問う土地の「贖い」の律法、それらに従い「真心」もって生きる者たちの具体的な「やさしさ」が神の憐れみの指標となり、救いの希望を支えます。「慈愛」「恵み」と訳されるヘブライ語「ヘセド」を、牧野牧師は「真心」「忠誠」の信実として説き明かされました。ルツやナオミ、ボアズの弱いながらも心尽くしの生を通し、神の前に誠実に生きる真にやさしい共同体形成が、祝福であると教えられます。

ところで、「申命記主義的歴史書」に含まれず、ヘブライ語聖書でも『士師記』の直後には配置されない『ルツ記』の講解がこの位置に置かれるのは、ユダヤの伝統内に生まれたギリシア語七十人訳聖書の配列に従うキリスト教正典に基づくためです。ヘブライ大学に留学され、イスラエル国発行の註解書『ミクラー・レイツラエル』シリーズも参照なさる説教者が、あえて書と書の独特な順序、その「脈絡」にこだわる点は注目に値します。それは、『ルツ記』冒頭の時代設定に適切、聖書に対する誠実さを示すと同時に、全体を「旧約のアドヴェント」と

して、つまり王的な神の支配を実現する「メシア・ダビデが待望される前夜」として受けとめるキリスト教信仰が表れているからです。聖書解釈にはどうしても解釈者の「前理解」（解釈以前の前提や理解）が問題となりますが、ここでの前理解は教会の信仰です。氏は現代聖書学の冷静で相対的な（したがって多様な）ものの方を「存じのうえで、古代ユダヤの翻訳・編集の一定の意図を受け継ぐキリスト教聖書神学の線に自覚的に立ち、教会で聞かれるべき忍耐と希望を取り次いでゆかれます。本書はダビデの国の到来を指さし祈りつつ閉じられます。その意味では、本説教集はなお途上にあると言えましょう。前後の説教集のさらなる出版を期待しながら本書を読みなおし、すでに自費出版されているという『マタイ』の講解説教をも手に入れて、今年の待降節・降誕節を迎えたいと願います。

（おおいし・しゅうへい）日本キリスト教会府中河原伝道所牧師  
（B6判・二七〇頁・本体一八〇〇円＋税・一麦出版社）



## 旧約のアドヴェント

講解説教 士師記・ルツ記

牧野信成  
Nobunari Makino



士師記はサムソンとデリラの映画で知られ、ミレーの落穂拾いはルツ記の一場面です。二つの書がもつ豊かな文学性とエンターテインメント性を汲み上げ、興味深く説き明かします。

四六判・並製  
定価【本体 2,800 + 税】円  
ISBN978-4-86325-104-5



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

使命・希望・勇氣に満ちた書  
手束正昭著

恩寵燦々と  
聖霊的自叙伝 上巻 雌伏の時代



三谷康人

『恩寵燦々と』を読了後、心の底から「こういう、すばらしい生き方、もあるんだなあ」と、込み上げて来る深いものがありました。一〇年程前に、手束牧師の著作『教会成長の勘所』を読んだ際も、地方の一牧師がこれだけの内容をよく書き上げたものと感服したものです。その時、手束牧師は事業経営の手腕も高いレベルにある方だと思われました。たとえば「教会成長のためのパラダイムシフト」として二〇〇名の壁を破るためには「羊飼いととしての牧師像から、牧場主としての牧師像に脱皮することである」という一節があります。それは牧師のイメージを変え、管理スタイルとリーダーシップを変えることを意味します。ビジネスの世界でも同じです。企業盛衰の鍵は、管理者から経営者（＝社長）の発想・視点にまで成長出来るかどうか、求められます。

ところで、最近の日本のキリスト教界に目を転じますと、高齢化、無牧化、CS生徒の減少等、衰退の一途をたどっています。危機感を強めざるを得ません。

その様な時、手束牧師は兵庫県高砂という地方の町で、分裂した恩寵の注ぎがあったことを証したいのである。

私が、今日まで生きながらなえ、今このようにして幸いな人生を歩んでいる背景には、大いなる神の愛と保護、燦々とした恩寵の注ぎがあったことを証したいのである。

結城の中学時代の心の寂しき、父は帰国し後妻をもらって大阪勤務、その後、関西学院の高等部に入學、神に触られ、受洗。その後も、後妻との不平等による父との確執、親替え（父から神へ）という神からの荒療法、そして真理を求め続けた神学生時代、そして、すばらしい女性と結婚。どれ一つとつても、そこには厳しい試練が待っていました。と共に、主の恩寵がありました。

本書のクライマックスの一つは、高砂教会へ二八才の若さで就任された時から始まります。そして「試練は恩寵と一つになってやってくる」との証しの時期が続くのです。ここでは紙面の関係で主要な部分のタイトルのみ挙げてみます。

就任時の高砂教会①「私はここで骨を埋めます」の覚悟②辞表を振りかざした波乱の幕開け、聖霊降臨のもたらした大転換④「キリスト者の完全」と「いやしの賜物」の拝受という大きな体験、カリスマ刷新をめぐる七年間の戦い①牙をむいた悪魔の宣戦布告（カネボウ土地購入反対）③挫折のなかで獲得した「恢復」の信仰、④牧師館建設問題で露呈した信

騒動を起こしながら、信徒数四〇名程から出発し、今では四五〇名を超えて、成長を続ける教会に育てておられます。その上、多くの他の教会成長を指導されてもいます。

一方では、毎年、韓国、台湾に行かれ、その成長のノウハウを吸収し、再構成して日本の伝統風土の中に溶け込ませるために尽力しておられます。そこには手束先生の使命感と同時に、不思議な力を感じます。どこにその秘密があるのでしょうか。細身の体でいつもニコニコしながら話される姿には愛があり、祈りがあり、力があります。どうしてそのような凛々しい先生が育ってこれたのか、いつも不思議に思っていました。その回答が本書の中に発見できます。

手束牧師は敗戦後、満州大連で母との死別、二才で従兄弟の背中に負われ日本に引き上げ、茨城県の結城にある祖父父母の所に帰り、そこで中学まで育てられたのです、その時の事を、懐古して次のように述べておられます。

相当な確率の高さで、幼い時に死んでいてもおかしくなかつ

仰の根深い対立、見事な神の御計らいを見よ⑥「苦悩の冠」を経て戴いた大きな財産⑦「赦しへの服従」がもたらした大いなる祝福

本文の中にジョン・ウエスレーの母の愛読書『霊の戦い』にふれた箇所があります。「神から大きな使命を与えられた人には、必ず迫害者、攻撃者は付きものなのであり、それらの人々によって、鍛えられられてこそ、その大命と果たし得る者として人として整えられることになる。」（これは神の摂理であり、避けられない運命なのである）……まさに手束牧師の人生そのものであり、そこに素晴らしい恩寵と燦々とした輝きがあります。本書は手束牧師のアイデンティティ確立の旅物語でもあるといえます。（ロマ書・5章11-15）

この本から読者はご自分の人生における使命の再確認と生きる希望と勇氣を見出されることでしょう。私自身、会社生活は降格三回、直言したため赤字の子会社に左遷という一見挫折と失意のように見える人生でした。しかし、それは勝利に至るために必要な道でした。この本を読みつつ自分の人生と重ね合わせて、主の恩寵の見事さを一層強く、首肯する事ができました。この本と出会ったことを感謝します。

（みたに・やすと＝元カネボウ代表取締役）  
（四六判・四〇〇頁・本体二〇〇〇円＋税・キリスト新聞社）

神学的思考のための、基礎的知識を身に付けるために  
 アリスター・E・マクグラス著  
 芳賀 力訳

神学のよろこび 新装増補改訂版  
 はじめての人のための「キリスト教神学」ガイド



朝岡 勝

「入門」、「案内」、「手引き」、「はじめての」、「〜とは何か」。ある特定の分野に関するまとまった勉強を始めようとする時に、私たちがまず向かうのは、そのようなタイトルの書物でしよう。しかし実際にそれらの書物を手にしてみても、タイトルと中身のギャップに途方に暮れる思いをした方も少なくないのでは、と思います。入門書と銘打たれていても、様々な専門知識がすでに前提にされていて、最初の数歩が飛ばされていたり、著者の思い入れや興味関心が先行して、事柄の全体像が見えにくかったり、なかなか「これだ!」という入門書と出会うのは難しいものです。

そんな中で、現代のキリスト教神学において最良の著者による定評ある教科書が、装い新たに増補されて登場しました。現代英国福音主義を代表する神学者アリスター・E・マクグラスによる「神学のよろこび」(原書初版二〇〇四年、翻訳二〇〇五年)の、原著第三版(二〇二二年)による新装増補改訂版です。「Theology: The Basics」(神学、その基礎)との原著名が示し、そして著者自身が「本書はキリスト教神学の最も基礎的

な知識に導くことを目指しています」(一〇頁)と言っているように、本書は神学をはじめて学ぼうとする人にとっての最良の教科書です。「さあ、はじめよう」では、神学という営みの全体像が俯瞰され、その源泉となる「聖書」、「伝統」とりわけ「信条」そして「理性」の役割が整理されます。続いて主神学トピックが、使徒信条の構造に従って、信仰、神、創造、イエス、救い、聖霊、三位一体、教会、聖礼典(サクラメント)、天の国の順序で論じられていきます。今回の増補改訂の特色については、訳者の芳賀力先生が触れておられるとおり(三九六頁)、大きな所では新たに第6章として聖霊論、第9章に聖礼典論が設けられていること、各論でもさらに丁寧で具体的な記述が増えていることなどが挙げられ、日本語旧版が二八一ページであったのに対し、今回の新版は三九七ページとなっています。

今回、評者が新版を読んで印象に残った点をいくつか挙げておきます。第一に、信仰論において現代神学における「苦難」の問題が扱われていることです。ここではジョン・ヒック、ア

ルヴィン・プランテインガ、モルトマン、ボンヘッフアーが取り上げられ、苦難の意味を明らかにする営みにまざる、苦難に寄り添う営みの役割が論じられます。これは3・11の日本の教会と神学において、本格的に論じられるべき示唆を与えています。

第二に、聖霊論が旧版の三位一体論から独立し、新たな章を設けて扱われていることです。それは「今日、カリスマ運動は世界中のキリスト教に大きな影響を与えて」いること、「礼拝とキリスト者の生活における聖霊の役割を強調したことは、聖霊の役割に対する神学的省察に非常に際立った特徴を与えた」ことへの著者の評価のゆえです(二一八頁)。この背景には、英国やヨーロッパ諸国の伝統的な教会が停滞の一途を辿る一方で、若者が集い、活き活きと活動しているのがペンテコステ派、カリスマ派の教会であるという現実があるでしょう。それらを踏まえて、聖書的でバランスのとれた聖霊論の論述が為されていることが、本書の一つの特徴といえるかも知れません。

第三に、天国論において、「愛する者との再会としての天国」の希望が論じられる点です。「生まれ故郷に戻り、彼らの知っている愛した人々とそこで再会するという希望は、試みや苦難に遭う時にも力強い慰めとして与えられます」(三七四頁)といった表現を読むとき、神学の教科書以上の響きを受け取ります。

ジャーナリスティックなものが持てはやされる時代に、神学的思考の訓練のための基礎的な知識を身に付けることは必須です。その際の「基礎的な知識」とは、教理的な知識と教理史的な知識であることを本書はよく表しています。初学者は巻末の「次のステップへ進もう」に導かれて、さらなるステージを目指していただきたいと思いますし、日々、教会に仕える伝道者たちも本書を手元にいつも置いて、さらなる習練に励みたいと願います。

(あさおか・まさる // 日本同盟基督教団徳丸町キリスト教牧師  
 (四六判・四五〇頁・本体四〇〇〇円+税・キリスト新聞社)



ルーテル教会の  
 信仰告白と  
 公同性

神学的自伝

石田 順朗 著

●四六判並製 ●本体1,400円

著者はルーテル世界連盟の中核で人種問題、ローマカトリック教会との対話等、重大諸問題に直面するグローバルな教会のリーダーシップの一端を担った。若い世代の牧師として戦後の教会再建に直接携わった経験を綴った一章「ルーテル教会の公同性—戦後日本の各派ルーテル教会」は貴重な証言記録である。また、宗教改革500年の年にふさわしい論考として「伝道論から見たルター神学」や、「ルーテルのDNA」と題して、ルーテル教会の真髄、アイデンティティーを今一度とらえなおした。補遺として内外の追悼文6篇と召天記念礼拝の説教(清重尚弘)を収録。

ISBN978-4-86376-061-5

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402  
 FAX 03-3238-7638

負い目を吹き飛ばすような神の恵みと霊的資質を描く！

ジョン・マッカーサー著  
山口衣子訳

聖書に登場する12人の非凡な女性たち  
聖書の女性たちはどのように形づくられたか、  
神はあなたに何をのぞまれているか



矢木良雄

少し長いが魅力的な書名である。『聖書に登場する12人の非凡な女性たち』、いつものようにあとがきから読み始めた。訳者あとがきである。そして衝撃を受けることになる。そこで訳者である山口衣子先生が、どのような中で翻訳に取り組んで来たかを記しておられる。この数年、死線をさまようような難病と闘い、二つのガンを経験し、ようやく三年にわたる抗がん剤治療から解放されたばかりであった。「体調も悪く、完成できるかどうかも全くわからない状態でした。ただ子どもたちと孫たちへの遺言のような気持ちで翻訳を進めました」と述べておられる。軽く引き受けた原稿であったが、先生の覚悟、命がけの訳業を目の当たりにし、これはうかつには書けないと思いを新たにさせられた。「遺言的」訳書は重いものである。

著者であるジョン・マッカーサーは米国で影響力を持つ福音派の指導者で、カリフォルニア州のグレース・コミュニケーション教会の牧師であるとのこと。邦訳はこの書が初めてであろう。『マッカーサー・スタディー・バイブル』でゴールド・メダリ

オン賞を受賞している。それ以外にも多くの著書があると紹介されている。

この書『聖書に登場する12人の非凡な女性たち』であるが、12人には著者のこだわりがあるようだ。以前の著書に十二使徒を扱った『12人の普通の男たち』がある。その続編として企画されたのが本書である。前書は「普通の」男たちとして使徒たちを紹介し、こちらは女性たちを「非凡な」と賞賛している。しかしフェミニストの立場ではない。むしろフェミニズムには否定的な立場を表明している。著者の意図は、「聖書に登場する最も意義深い女性たちは、成功したことではなく、女性らしい性格のゆえに重要な役割を果たしたことです。こうした女性たちが総合的に与えてくれるメッセージは『性差の対等性』ではなく『真の女性のすばらしさ』です」と、彼女たちの霊的資質に注目している。

聖書に登場する女性の中から12人に絞り込むのは容易なこと

ではないだろう。まず気になるのは、どのような基準で12人を選び出したかである。取り上げられているのは、エバ、サラ、ラハブ、ルツ、ハンナ、マリヤ、アンナ、サマリヤの女、マルタとマリヤ、マグダラのマリヤ、そしてルデヤである。「非凡な」という基準から言えば、いかにもという女性もいるが、なぜ？ という人物もいる。はしがきには「贖いの物語に重要な意味を持つ12人の女性を選び出した」とある。つまり神の恵みを例示するような女性たちを選んだということであろう。「こうしたすべての女性たちは、自分自身の生まれ持った資質ではなく、……神が女性たちを銀のように精錬してくださったゆえに、究極的に非凡な存在に生まれ変わった」のだと記している。

読んでいくと、多くの女性たちがその生涯に「後ろめたさ」を引きずっていたのがわかる。エバは最高の生を与えられながら、アダムに先だつてサタンに惑わされ、さらに夫まで自らの罪に巻き込んでしまった、そうした負い目をずっと引きずっていたと思われる。サラは子どもが生まれないうちに悩む。それは夫アブラハムに約束された祝福を自分が妨げているのではないか、という負い目であった。夫が喜々として神の約束を語るたびに、彼女の心は重く閉ざしたと思われる。ラハブはエリコの遊女であった。どれほどエリコ陥落の戦いに加担したとしても、その過去が消えるわけではない。ルツもまたモアブ人という出自を持つ未亡人に過ぎない。サマリヤの女も同様に好ましい女性とは認められていない。マグダラのマリヤも然りである。

この範疇に入らないマリヤのような女性もいるが、程度の差こそあれ、初めから「卓越した」人生を開始した人物はいない。だからこそ、これらの女性を選んだと著者は言う。ラハブに関しては「彼女は人間の罪の力の実例として私たちに示されているのではありません。……ラハブは神がその恵みによって、最も悲惨な人生さえ贖われることがおできになることを思い起こさせてくれる人物です」と記している。確かに、彼らの負い目を吹き飛ばすような神の恵みが、長い忍耐の末に与えられことを私たちは聖書のうちに、またこの書を通して知ることができると。それがエバから始まりルデヤに至るまで、彼女たちが握り続けた希望であった。

著者が『スタディー・バイブル』を著していることからわかるように、12人の時代背景や生涯が丁寧に扱われていて、人物の全体像が浮かび上がってくる。また新約聖書から多くの聖句を引用し、彼女たちの生涯の意義を解き明かそうとしているのもこの書の特徴である。巻末に「学びの手引き」が加えられているのは、教会でのバイブルクラスを念頭に書かれているからだろう。個人で読むことも幸いであるが、ぜひ学びのテキストとしてもご利用いただければと思う。

(やぎ・よしお 太平洋放送協合理事長)  
(A5判・三〇〇頁・二五〇〇円＋税・ヨベル)

福祉におけるキリスト教ヒューマニズムの軌跡  
宮武正明著

シリーズ福祉に生きる70

白沢久一



杉村 宏

本書にとりあげられた白沢久一も著者宮武正明もともに生活保護ケースワーカーから教育研究者となった、異色の組み合わせによる評伝である。

白沢久一（一九三五～二〇〇二）は、一九五〇年代後半から六〇年代にかけて東京都の生活保護のケースワーカーとして生活困窮者の援護に従事しながら、生活保護・社会福祉の改善のために全国の生活保護ケースワーカーの自主的研究団体を組織するなどの社会活動を積極的に行ってきた人である。江戸川区のケースワーカー時代には東京で最後のスラムと言われた「バタヤ集落」を担当し、そこに暮らす人々、とりわけそこで育つ子供たちの保護に深くかわり、どのような支援が必要かについて、のちに「生活力＝生き抜く力」形成に関する理論を構築し、社会福祉と教育を統合する実践課題を提起したことで知られる人物である。

一九六七年に北星学園大学教員に転じた白沢は、一五世紀カトリックヒューマニズムに始まるイギリスにおける救貧思想の研究を行い、それを基礎に貧困の中にある人々が生活問題とど

のように向き合い、それを克服するためにどのようなソーシャルワーク支援が必要なのかを探究した。

生活保護制度は最低生活の保障とともに自立助長を図ることを目的とするが、この過程では「自意識を外から注入する」自立論と結びつきやすかった。白沢は「自意識が、どのような生活問題に気付くことによってそれを克服しようとする意図的努力に結びつくのか」と問いかけ、大切なのは民主主義精神に根ざす自治意識（統治能力）にあると論じた。一見飛躍した論理のように見えるが、「バタヤ集落」に象徴される劣悪な住生活、不安定な就労、教育機会を奪われる環境の中において、このような状況の改善は何よりも環境を変える意識的努力にあることが重要であることに基づいていた。

この成果は、白沢編著『生活力の形成』、『生活関係の形成』に結実するが、それを今日の福祉事務所実践し目覚ましい成果を発揮している事例として、釧路市の「街ぐるみの自立支援活動」や学習支援の始まりとなった江戸川区の「中3生勉強会」など枚挙にいとまがない。

白沢は、自らもマルクス主義研究者であることを誇りにし、貧困という難問に理論と実践で立ち向かい、晩年マルクスのまま洗礼を受けたが、そこに通底するのは深いヒューマニズム精神であった。格差と貧困が深刻化する今日、多くの人々に読んでいただきたい一冊である。

研究者となった白沢は、さらに一九七七年、赴任した札幌市で自宅の隣に「東白石雪ん子保育園」を開設し、妻が園長となり、本年七月創立四〇周年を迎えた。私は出席できなかったが、記念祝賀会では、札幌・聖ミカエル教会の下澤昌司祭から、教会での白沢夫妻の信仰の日々についての紹介があったと聞く。

（すまむら・ひろし）北海道大学名誉教授、法政大学名誉教授  
（B6判・一九四頁・本体二〇〇円＋税・大空社出版）

落ちこんだら  
正教会司祭の処方箋171  
\*絶賛発売中！  
聖書の人物たちも、最も偉大な聖者らも、教会の聖職者たちも……みんな「落胆」の経験者。でもだいじょうぶ。嘆きは心のなかに大聖堂が建てられている、その礎の福音なのだから……。171のタイムリーな処方箋があなたの落ちこみを、希望への足がかりに変えてくれます。  
●四六判・三〇四頁・一六〇〇円＋税

師父たちの食卓で  
創世記を味わう  
第1章～第3章  
シユセツペニ二二木一 訳・佐藤弥生 監修・松島雄一  
大頭責「先生評……ようにぞ、心躍る師父たちの「食卓」へ！……聖書の物語は、教会の物語と切り離すことができない。……正教徒の本だから、難しいのではないかと、「正統的」カトリック信仰やプロテスタント信仰が危険にさらされるのでは、といった心配は無用である。安心して心躍る師父たちの食卓に加わっていただきたい。在庫僅少！  
●A5判・二七頁・二二〇〇円＋税

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
お問合せは info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
\*自費出版の専門出版社\*資料・星

説教者が（クリスマス驚き）を回復するために

説教黙想アレテイア特別増刊号  
受肉の驚き  
今、クリスマスをいかに語るか



松木 進

本誌は『説教黙想アレテイア』シリーズのクリスマス特別増刊号です。加藤常昭氏は、本誌の中で、バルトを踏まえ「真実の福音を驚きつつ聴く黙想から生まれる、聴き手に驚く喜びを呼び起こす言葉になっているだろうか。いつもより早くクリスマス説教の準備をしよう」（五頁）と書いています。クリスマスはメッセージが福音の驚きに突き動かされた新しい言葉となっているのか。それ以前に、説教者自身が福音に驚かされているかが問われています。

クリスマスには、教会の礼拝はもとより幼稚園や学校など関係団体で多くの集會が行われます。幾つもの集會でメッセージを語りながら、聖書の箇所を選ぶことにさえ悩んでしまう時があります。本誌では、待降節から降誕祭に至る伝統的な聖書箇所を紹介し（二〇―二二頁）。それらの箇所に触れるだけでも、異なる新しいメッセージが与えられるに違いありません。それらの箇所のうちの幾つかには、実際に説教黙想を行っています。

クリスマスは一年でも最も教会が賑わう時です。礼拝の出席

という宣教の物語は、ローマ帝国という舞台があつてはじめて成り立つ。福音宣教のためにローマ帝国をも用いられる神の偉大さが、ルカによって描かれている（七一頁）。飼葉桶を御子が誰のための救い主であるかを指し示すしとし、「虐げられている者、この世にあつて自らの居場所を持たない者の救い主となるために、御子は飼葉桶の中にお生まれになった。この黙想を膨らませると、暗き世に光が灯ったというクリスマスメッセージが立ち上がるのではと思われる」（七二頁）。「神ご自身が、ローマの平和に目を留め、納税と軍勢力と実利的な知力だけでは決して真の平和が訪れないことを知らしめるために、アウグストゥスの時代に、あえて、御子を飼葉桶に遣わしてくださった。ここに、ルカ固有のクリスマスメッセージがある。この神秘を心に刻み、謙りと十字架の主の本当の平和を祈り求める」（七三頁）。対外的な緊張、憲法改定などを通し改めて平和への思いを強くするこの時、教会が語ることを求めら

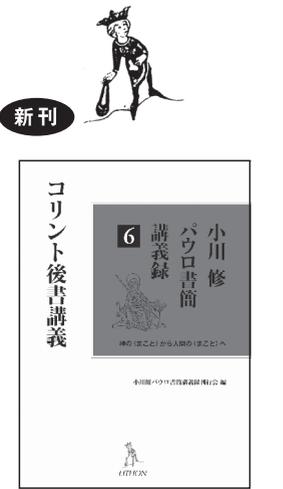
者が増えますが、その出席者の中には、少なからず初めて礼拝に来た人、まだ信仰を与えられていない人が含まれます。本誌では、ヘルムート・シュライナーが語るクリスマス説教が陥りやすい二つの危険を紹介し、「メッセージが世俗化すること」と「教理を教えることに逃避すること」（二一―二八頁）です。これらの危険は、どの礼拝でも問われることですが、クリスマスにはなおさらのことでしょう。普段、礼拝に出席していない人の心にも届く言葉を追い求めるあまり、人間の愛をたたえること、クリスマスをロマンチックに語ることによって、説教が世俗化する危険があります。また、講義のように教義を教えるだけで満足してしまう説教もあります。いずれも福音を告げ知らせることのない説教、神をあがめることへと聴き手を導かない説教となつてしまいます。本誌は、何よりも「主の受肉」という神の御業（わたしたちの理解を超えた大いなる出来事）がまず説教者に驚きをもたらし、新しい言葉を与える幾つもの黙想を収めています。

その一つを紹介し「ルカによる福音書から使徒言行録

れている新しい言葉の一つがここにあります。

説教黙想は、説教者が説教の言葉を見つめる（与えられる）作業です。説教黙想を行うことによって、テキストの構造が明らかになり、メッセージが浮かび上がってきます。そのようにして与えられる説教のための言葉は、新しい言葉となることでしょう。豊かな黙想を経た時、豊かな説教もまた見えてきます。今年のクリスマスに、まず説教者自身が驚きを与えられる黙想に触れることによって、聴き手を驚かせる新しいみ言葉を届けられることができるでしょう。クリスマスの説教をする上で、本誌は説教者の大きな助けとなり、導きとなる一冊です。

（まつき・すすむ）日本基督教団八王子教会牧師  
（B5判・二二八頁・本体一八五二円＋税・日本キリスト教団出版局）



小川修。パウロ  
書簡講義録6  
コリント後書講義

小川修パウロ書簡講義録刊行会編  
●A5判上製三五三頁●定価三三四〇円

小川修先生が長年追い求め掴まれた福音理解は、同志社大学神学部大学院での三年間（二〇〇七―一〇年）に亘るパウロ書簡講義に結実したと言っても過言ではない。ひとことでは「神の（まこと）から人間の（まこと）」というパウロの福音理解であった。

LITHON [リトロン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402  
FAX 03-3238-7638

見事な生き方  
佐竹順子著

あなたに平安がありますように  
七人の息子を育て 福祉の現場に生きて



乙幡和雄

はじめに  
「太陽の下、<sup>も</sup> 苦労してきたことのすべてに、わたしの心は絶望していった」(二章一〇節)、コヘレトは嘆いているが、人の世は、困苦に満ち、迷い思い悩むことがしばしば。  
そんな折、本書を手にはいかがる。良きヒントや光明を与えられると思う。とは言え本書は、人生相談や解決法を示す手引ではない。著者が八〇歳の折、自らを顧みた自伝である。

本書は、序章・七人の息子たちと共に、一章・生育歴、二章・順子就職、三章・綾瀬、四章・政治、五章・さがみ野ホーム、六章・矯風会での大きな学びと多くの出会い、七章・マイナスからプラスへの人生、おわりに、からなっている。

どの頁からも、誠実に様々な事柄に立ち向かう著者の足音が聞こえてくる。しかし、私が、まず心を打たれたのは、夫妻の子育てである。

子育て

七頁)。

「厳しい体験は人を作り、優しさも芽生える」。これが著者の信念である(二八頁)。

恩讐を超えて

夫君が二期目の町長に当選して間もなく、政敵の陰謀により、その座を追われ、執行猶予となる事件が起きた。著者は今まで決して見せなかつた感情を露わにし、夫を犯罪者に仕立てた人達をどうしても赦すことが出来ない(一一二頁)。出来れば復讐したいと思う程であった。『復讐はわたしのすること』(ロマ書一二章)。このみ言葉を繰り返し読み、祈りに祈っても到底赦す気になれない。塗炭の苦しみを赤裸々に語っている(一一四頁)

数年後、著者が到底赦せないでいる宿敵に夫君が出会う。相手は見るも哀れな姿で街を歩いていた。当然、「いい気味。人

著者は約十年間に七人の男の子に恵まれる。一人の子育ても大変なのに、なんと七人である。しかも専業主婦ではない。夫が園長を務める「障害者救護施設ーあやせホーム」の職員としても活躍している。夫君は園長として、施設の業務全てを仕切りながら、夜は子供のおむつの交換、朝は離乳食作り、それを右手で子供に与えながら、左手で自分の朝食をとっている(三二、三三頁)。

著者は自身の育児の大変さには殆ど触れていないが、母として、夫君以上に多事・多忙な時間を送っていたに違いない。

「育児は夫婦でするもの」には違いないが、ここまでなるとは知らなかった。子供が幼稚園児になると一人で床屋に行かせ(三二頁)、小学六年生の時、神奈川県綾瀬市から著者の故郷土佐へ、墓参りと親族への挨拶に送り出す(二二頁)。その距離約八〇〇キロ。

大学に合格すると「貴方たちは、今まで鉛筆持つだけの生活だったが、それでは世の中を生きていくには不十分で、力仕事を経験しなさい」と土木作業工務店などで働かせている(二

を呪えば穴二つ)と思うのが人の常であろう。しかし、夫君は違っていた。その人に、「先ほど道でお会いしたのに気づかなかつた。申し訳ない」とわざわざ電話したそうである。著者が訝ると「人は落ちぶれている時に無視されると辛いものだ」と語ったそうである。(二二九頁)。

留置所や拘置所でどれほど悔し涙を流されたことだろうか。時に、呪いに似た日々を送られたに違いない。その彼が、自分を貶めた人を赦すばかりか、まるで旧來の友の様に振る舞っているのである。胸が熱くなつて来る。その心境に達するまでの神との格闘がしのばれる。とまれ、見事な夫妻の生きざまに胸を打たれ、目頭が熱くなつてくる。

(おっぱた・かずお 日本基督教団隠退教師)  
(A5判・二〇〇頁・本体一〇〇〇円+税・大空社出版)

500 years of Reformation

## ジャン・カルヴァン

その働きと著作

ヴァルフェルト・デ・グレーフ  
菊地信光\*訳

ヴァルフェルト・デ・グレーフ  
ジャン・カルヴァン  
その働きと著作  
菊地信光訳

一麦出版社

カルヴァンの「著作」を、同時代の著作、論争、活動と連動させて歴史上に配置、関連する豊富な情報をみごとに収集・整理し、16世紀の文脈で、カルヴァンの姿を浮かびあがらせた。

A5判・上製・函入  
定価【本体 6,800 +税】円  
ISBN978-4-86325-103-8

株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

# 本屋さんを選んだ お勧めの本

待晨堂 市川義生

関西学院大学神学部ブックレット9

## 『平和の神との歩み』

関田寛雄・奥本京子ほか著



1,500円+税  
キリスト新聞社

すでに50年余り続く関西学院大学神学部のセミナー（教職セミナーが神学セミナーと名称を改めてからブックレットとして毎年出版）の内容を纏めたものの一冊です。神学セミナーというとは何か専門的な感じがして尻込みされる方も多いかもしれませんが、全く難解なことではなく、このブックレットには牧師を父に持つ関田寛雄の戦中・戦後の証し（『ブックレット1』にも若干重複記載有）や社会問題などに関する話や、奥本京子の「平和を創る」ワークシヨップ報告がメインとなり、さらに三つの分科会報告と三人の神学生の平和活動報告が掲載され、最後にセミナーの閉会礼拝の詳細な内容報告（16頁）といった構成（全132頁）になっています。

今年の日本政府による「平和」と逆行するかのような諸法案成立と北朝鮮やISの所行の只中であって、「平

和」を守るためにキリスト者としていかに行動すべきかという時の一つの指針になるのではと思いました。ある説教者は「日本の教会は危機にある」と繰り返して述べていますが、信徒は覚悟をもって今という時を見つめて生き、説教者は神の預言者としてその務めを果たしていただきたいと切に望みます。

## 『矢内原忠雄』

——戦争と知識人の使命——

赤江達也著



840円+税  
岩波書店

2013年に『紙上の教会』と日本近代（岩波書店）を上梓した著者が、矢内原忠雄を学者・知識人の側面と宗教人・預言者としての側面から戦争に対峙した人として紹介しています。生い立ちから学者としての歩み、内村鑑三門下としての歩みを丁寧に紹介しつつ、矢内原が説いた「神の国」思想は「預言者的ナシヨナリズム」による「国体論的ナシヨナリズム」批判であると……。

### 待晨堂

〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-16-1  
TEL: 03-3333-5778 (FAX 同)  
営業時間: 10時から19時まで  
休業日: 日曜日(11月、12月以外は祝日と第1、3、5月曜日も)  
E-mail: [taihindo@com.home.ne.jp](mailto:taihindo@com.home.ne.jp)  
URL: <https://taihindo-books.jindo.com/>

## 『聖書植物園図鑑』

西南学院大学

聖書植物園書籍出版委員会編



1,200円+税  
丸善プラネット

清光書店 柏川玲子

「野の花がどのように育つか、注意して見なさい。…栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾っていないかった」。大変有名な聖句ですが、ここでいう野の花が「シクラメン」だということをご存知ですか？（群生する野の花を特定できませんが、有力な候補として考えられているそうです）。聖書に登場するさまざまな植物100種類の聖句解説、植物解説、さらに栽培方法も書かれています。聖書をお読みになる時、植物の姿を見て、また知ることによってみ言葉をより身近に感じられるのではないのでしょうか。

栽培方法も書かれていますので、ご自身の手で聖書に記されている花や木を育ててみるのも楽しいかも知れません。植物をお好きな方にも、そうでない方にもオススメです。

## 『アトリエ』

西巻茅子著



1,400円+税  
こぐま社

本書は、ベストセラー絵本「私のワンピース」の作者で、絵本デビューから50年（！）の西巻茅子さんの初のエッセイです。西巻さんの幼い日の記憶、子どものアトリエを通して子どもたちから教えられたこと、デビューのきっかけや、絵本づくりで大切にしてきたことなど、著者の絵本づくりを支えてきたエピソードが満載です。改めて「わたしのワンピース」をはじめとした西巻さんの絵本を読み返したくなりました。

### 清光書店

〒951-8114 新潟県中央区営所通1番町3-13-3  
TEL: 025-229-0656 (FAX 同)

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1701F	022-223-2736	共用		fcqwkw524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉県船橋区2 榎ケスギセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimb.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.jp/~yohatara-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshata.cococan.jp/	nagoya-seibunshata@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/index.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖繩キリスト教書店	903-0207	中瀬調子字跡777 沖繩キリスト教院内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2017年8月～9月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
上田光正	日本の伝道を考える5 キリストへの愛と 忠誠に生きる教会	A5	370	2,300	教文館	8/30
鈴木範久	日本キリスト教史 一年表で読む	A5	504	4,600	〃	8/30
B.ゴードン著 出村彰訳	『キリスト教要綱』物語 —どのように書かれ、 読まれてきたか	四六	336	3,200	〃	8/30
井上洋治著 山根道公編・解題	井上洋治著作選集9 南無の心に生きる、イエ スをめぐる女性たち(抄)	A5	252	2,500	日本キリスト 教団出版局	8/18
フスト・ゴンサレス著 石田学訳	キリスト教思想史II —アウグスティヌスから 宗教改革前夜まで	A5	426	5,000	新教出版社	8/31
ローワン・ウィリアムズ著 芦屋聖マルコ教会 翻訳の会訳	信頼のしるし —信経とは何か	四六	202	1,800	教文館	9/15
エイレナイオス著 大貫隆訳	キリスト教教父著作集3/Ⅲ エイレナイオス5 異端反駁V	A5	182	4,600	〃	9/30
宮平望	ジョン・マクマレー研究 —キリスト教と 政治・社会・宗教	A5	233	2,400	新教出版社	9/1
新教出版社編集部編	宗教改革と現代 —改革者たちの500年とこれ から【新教コイノーニア34】	A5	326	2,200	〃	9/30
落合建仁	日本プロテスタン ト教会史の—断面 —信仰告白と教会合 同運動を軸として	A5	304	3,600	日本キリスト 教団出版局	9/25
大塚野百合監修	こころの賛美歌・唱歌 —あのなつかしいメロ ディーと歌詞を歌う	B5変	64	1,600	〃	9/25
ジョン・マッカーサー著 山口衣子訳	聖書に登場する12 人の非凡な女性たち	A5	320	2,500	ヨベル	9/1

# 福音と世界

2017年12月号

特集 ポ・ピリスム・デモクラシー・キリスト教

寄稿者 水島治郎、ゾンターク・ミフ、吉

松純、酒井隆史、塩尻和子、原田健一朗

尹東柱生誕一〇〇年 梁賢恵、香山洋人／新

連載 福音の地下水脈 中村うさぎ／好評連

載 台湾キリスト教史(高井ヘラー由紀)、詩

篇(月本昭男)、第一テモテ書(辻学)、現代

神学の冒険(菅名定道)、レヴィナスの時間論

(内田樹)、ことばの履歴書(佐藤優) ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148  
Email: sales@shinkyō-pb.com

## 編集室から

他者の信仰、神学に出会う体験が好きだ。疑問に思うことがあったとしても、自身の信仰を見直し、神の豊かさを知る尊い体験だと思ふ。感謝なことにこの業界では、そんな機会に事欠かない。職場に届く本や雑誌に目を通すだけでも自分の知らない姿のキリストに出会えるのだ。

わたしの出会いの原体験といえば、高校時代に読んだ遠藤周作の『沈黙』だ。昨年映画化され、劇場にも足を運んだ。禁教時代に、日本に潜伏した宣教師を描いた物語であるが、「神様は困ったときに助けてくれます」とお決まりのように教えられてきた高校生にとっては、神の沈黙というテーマは衝撃的であった。棄教を迫られる場面では、「わたしを知らないと言っている者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言おう(マタイ10・33)」という、イエスの言葉が離れず、ハラハラしながら

読み進めたのを鮮明に覚えている。「踏むがいい」(映画では「踏みなさい」↑ここは原作通り訳してほしかった!)の言葉は、衝撃的であったと同時に、裁き主としてのキリストのイメージが定着していたわたしにとっては、新しいキリストの姿との出会いであった。

最近では、九月に『沈黙』に対するアンサー映画として宣伝されていた米国の映画『アメイジング・ジャーニー 神の小屋より』からもいい出会いをさせていただいた。伝道を全面に出した作品かと思いきや、むしろ教会に向けた作品で、神義論をテーマに、過去に傷を負った主人公に三位一体の神が現れ、癒しを体験していくというストーリー。原作も邦訳されており、著者のウイリアム・ポール・ヤング氏も、「これは神学である」と話しているという。まさしく、他者の神学と出会わせていただいたわけだ。

キリスト教書を開く、それは他者との出会いだ。他者との出会いを通してキリストの豊かさを知らせる、それはわたしたちが担う務めだと覚えて、明日もことばに向き合いたい。(桑島)

## 本のひろば 2018年1月号 予告

本・批評と紹介: 『宗教改革と現代』、出村彰、ローワン・ウィリアムズ著 『信教のしるし』、L・D・ビエルマ著 『ハイデルベルク信仰問答』の神学、大塚野百合著 『こころの賛美歌・唱歌』 ほか

人気のツイートを書籍化!



# ココろの深呼吸

## 気づきと癒しの言葉366

片柳弘史  
インターネットで配信され、5万超の共感を集めたつぶやきを書籍化。現代に生き、まいにち頑張るあなたへ向けた言葉の贈り物。大切な方へのプレゼントとしても最適です!

● A6判(文庫判)・390頁・本体900円

# 祈る

## パウロとカルヴァンとともに

R・ボーレン 川中子義勝訳

祈りとは、「私」に死んで、キリストの体なる「我ら」のうちに甦ること! 実践神学者にして詩人でもある著者が、祈りの修煉を教える指南書。

● 四六判・214頁・本体2,500円

# 十字架のキリスト以外に 福音はない

近藤勝彦 ガラテヤの信徒への手紙による説教

ルターが「神の義」を発見したとされる、ガラテヤ書。私たちの信仰を支えるイエス・キリストの恵みをパウロの言葉とともに力強く語る珠玉の説教集。

● B6判・184頁・本体1,700円

# ふたりのスケーター

ノエル・ストレットフィールド 中村妙子訳



第二次世界大戦前の英国。健康回復のため10歳でフィギュアスケートを始めたハリエツトと、3歳から英才教育を受けてきたララ。スケートに打ち込む二人の少女が切磋琢磨しながら成長する姿をさわやかに描く物語。【ルビ付き、小学4年から】

● 四六判・210頁・本体1,200円

## 好評シリーズ既刊

ふたりのエアリエル

ノエル・ストレットフィールド編 中村妙子訳

大女優の祖母に引き取られ、演劇学校に入れられた少女ソレルが、従姉との競演の果てにつかんだ夢とは……!

● 四六判・230頁・本体1,400円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549(出版部)  
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館

新教出版社

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1 Tel: 03-3260-6148 / Fax: 03-3260-6198  
HP : http://www.shinkyō-pb.com, email : sales2@shinkyō-pb.com



# いのちの水

トム・ハーパー作  
中村吉基 訳・望月麻生 絵

◆ B6判・本体 1500円

誰でも自由に飲めたのに、  
なぜ？

昔々、いのちの水の湧き出る泉があった。しかし泉に感謝するために建てたはずの記念碑は次第に大げさな礼拝堂となり、ついには泉がどこにあるのか分からなくなってしまった……。

聖なるものを囲い込もうとする宗教の閉鎖性を痛烈に批判した寓話を、達意の訳文と美しい消しゴム版画によって贈る。

# 第二コリント書 8-9章

【現代新約注解全書】

11月15日

世界最高水準の第二コリント注解がいよいよ刊行開始。第一回配本の8-9章は、パウロが献金問題を詳しく論じた重要な部分。次回配本は愛の賛歌を含む10-13章で来  
年刊行予定。第三回は1-7章で数年後となる。

◆ A5判・本体 7000円



マリリン・ロビンソン著／宇野元訳  
2005年、ピューリッツァー賞および全米批評家賞受賞小説

# ギレアド

「私はこの本の虜になった」  
バラク・オバマ

大反響

カルヴァンとバルトを愛読する老牧師が自らの死期を意識し、若い妻との間にもうけた幼い息子に手紙を綴る。南北戦争以来三代に亘る牧師一族の信仰の歩み。帰郷した謎めいた青年と妻との関係。揺れる心。隣人たちの人生――。

◆ 四六判・本体 3000円

# 戦後 70 年の神学と教会

新教出版社編集部編【新教コイノニア 35】

好評

戦後日本のキリスト教界が歩んできた道のりを、部門別に振り返り、今後の課題を展望する。

【寄稿者】新約学＝八木誠一、旧約学＝山我哲雄、キリスト教史学＝出村彰、組織神学＝芦名定道、実践神学＝中道基夫、神学教育＝深田未来生、フェミニスト神学＝吉谷かおる、沖繩の神学＝宮城幹夫、移住民の神学＝関田寛雄ほか 8 名、全 17 論考。 ◆ 本体 1500 円

本のこぼれ

第七二〇号 二〇一七年十二月号

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話 03-3260-6148  
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株)平河工業社  
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話 03-3260-5670

定価 七七八円 (税抜 七二二円) (P.62 円)  
一年分 一三〇〇円 (送料 共)